

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

Spring 2019

APR.-JUN.

108

特集
オペラシアターこんにやく座
オペラ「銀のロバ」

旅する オペラ



特集

03 旅するオペラ

オペラシアターこんにゃく座
オペラ「銀のロバ」

08 any通信

- ◎アーティストボイス 野崎有以 (詩人・研究者)
- ◎お先に試写しました 「ともしび」(アンドレア・バラオロ監督)
- ◎わたしも観ました 「バッド・ジーニアス」村田 敦 (ベジタブル喫茶ToyToy店主)
- ◎読書の窓 上馬キリスト教会『上馬キリスト教会の世界一ゆるい聖書入門』
- ◎この日の出来事 5月2日
- ◎MY TOOL 「半田ごて・アナログテスター」
西村 平(山口市民会館 館長)

ピックアップイベント

10 山口情報芸術センター
YCAM スポーツハッカソン 2019
スポーツはつくれる!!

第4回 未来の山口の運動会
世界初の競技をみんなで体験する

中原中也記念館

企画展「沸騰する精神——詩人・上田敏雄」
絶えず変化し続けた詩人の全貌

山口市民会館

特撰落語会
三遊亭小遊三・三遊亭円楽・柳家花緑
今年の春も落語で笑顔の花が咲く

人形劇団アーク「三びきのやぎのがらがらどん」
三びきのやぎが魔物トロールに立ち向かう

13 MESSAGE BORD

14 イベントカレンダー 4~6月
INFORMATION

オペラシアター
こんにゃく座

東京藝術大学内で1965年から12年間にわたって活動が続いた学生たちのサークル「こんにゃく体操クラブ」を母体に、その出身者たちにより、自国語のオペラ作品をレパートリーとし、恒常的にオペラを上演する専門のオペラ劇団として、1971年に設立される。レパートリーの数は60を超え、また一年中旅公演を行い、年間250公演の上演活動を行っている。

全国各地を旅してまわり、日本国中、さらには世界の子どもたち、大人たちに
珠玉のオペラ作品を届けている“旅をするオペラ劇団”、
それがオペラシアターこんにゃく座です。

山口へもこれまで幾度となく訪れ、明瞭な日本語によるオペラを公演しています。

そして、7月7日、七夕の夜に私たちのもとに届く

新たなるオペラはソーニャ・ハートネット原作の『銀のロバ』。

山口情報芸術センターを会場に

2人の少女と異国からやってきた脱走兵が出会い、物語が始まります。
本作について、こんにゃく座の代表兼音楽監督であり作曲を手掛けられた

萩京子さんへインタビューを行いました。

旅するオペラ



特集
オペラシアターこんにゃく座
オペラ「銀のロバ」
インタビュー
萩京子(こんにゃく座音楽監督)



萩京子 HAGI Kyoko
東京出身。1978年、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。
79年よりオペラシアターこんにゃく座の座付作曲家兼ピアノ
ニストとして活動を始める。97年、音楽監督に就任。2004
年、こんにゃく座代表に就任する。

言葉と音楽の両方が
作品が飛び立てる、
より膨らむ題材は
なんだろうと考えて
選んでいます。

どうしても心にひっかかる、
この作品を
オペラにしたい。

この度山口で上演されるオペラ「銀のロバ」ですが、まずは舞台化にいたった経緯を教えてください。

この作品のときは、おもに子どもたちに向けた新作のオペラ作品をと考えて、長く題材を探していました。今回台本をお願いしたのは、児童演劇の戯曲をたくさん書いていらっしゃるいずみ凜さん。いつかオペラの台本を書いていただきたいという思いが数年越しにあった方です。それから演出をお願いした恵川智美さんは、劇団黒テント(60年代後半からのアングラ演劇ブームを代表する劇団の一つ)ご出身で、古いお付き合いのある方。いまはオペラの演出を多く手掛けていらっしゃいます。お二人にも題材探しから一緒に参加していただき、何度も何度も打ち合わせをして、1年半くらいかけてようやく決まったのが、児童文学の『銀のロバ』でした。ただ、この作品を舞台化すると長大なものになるだろう、小さい子どもたちに観てもらう作品は上演時間が長くない方がいいと考えるため、一度は無理なんじゃないかとも思いました。

でも、どうしても心にひっかかるものがある、この作品をオペラにしたいという気持ちが固まり、いずみ凜さん、恵川智美さんも賛成してくださって、歌い手5人とピアノニストで上演できる作品として作るようになりました。

原作の『銀のロバ』のどこに魅力を感じられたのでしょうか？

原作者であるソーニャ・ハートネットさんはオーストラリア出身の若い方。彼女が描く児童文学は「生きている人間の陰り」にスポットを当てた作品が多いです。子どもたちのためのお芝居という、いわゆる元気が出るようなものや勇気を与えるものが多いと思いがちですが、人間の暗い部分、闇に注目するような作品をあえ

て選び、子どもたちにも心の深いところの暗いものを感じ取ってもらいたいと考えました。

『銀のロバ』は、戦地から脱走してきた異国の兵士が森の中に逃げ込み、そこで姉妹に出会い、彼女たちはその兵士を大人たちには頼らずなんとか故郷に帰してあげようと奔走する物語、である一方で、その脱走兵は物語の中で語り部のような役割も果たしています。銀製のロバをお守りのように持っている兵士は、ロバにまつわる物語を少女たちにたくさん語って聞かせるのです。そういった異国から来た人と少女たちが物語を通じて心を通わせていく、その仕組みがとてもおもしろいと感じました。また、少ない人数で演じるなかで、兵士が語る物語の中に、その話

を聞いている少女たちも参加して物語を作っていく、というやり方もできると思ったのです。

あと一つは、「ロバ」というのはイソップ物語にもあるように西洋文化では、どこかのろまな存在だったり、おろか者だったり“負”の部分で描かれることが多いのですが、逆に言うと「争わない」、「優しさ」や「平和」を象徴する動物だとも受け取れたので、そんな「ロバ」がもつ象徴性のようなものにも惹かれました。

舞台化する作品を選ぶときに大切にされていることは何でしょうか？

子どもを対象にしているても大人を対象にしているても、私たちが日本語で歌い、オペラとして表現するときに、言葉と音楽の両方が合わさることで作品が飛び立てる、より膨らむ題材はなんだろうということから考えています。ストレートプレイで上演するのではなく、音楽が入ることですどう変わっていくのかを常に考えて題材を選んでいます。

子どもたちは
とても集中して見てくれる、
大事なことをちゃんと
受け止めてくれています。

先ほど原作では「人間の闇の部分」が描かれていとおっしゃられていましたが、オペラ「銀のロバ」でもその闇の部分を感じさせる内容となるのでしょうか？

戦争の悲惨さ、兵士が戦争で受けた心の傷が作品の通奏低音のように響いていますが、物語の中の子どもたちは喧嘩しながらも、とても生き生きと会話をします。その子どもたちの様子が伝わるように、どう歌と音楽で表現するかを自分にとっての大きな課題としていましたが、結果的にはとてもうまく作曲できたと思っています。表情豊かな作品に仕上がったと思います。観客である子どもたちはとても素直にこの作品を観てくれます。低学年であればより一層受け止め方もピュアで、大

事なことをちゃんと受け止めてくれている、鑑賞後に書いてくれた感想を読むとそのことがすごく伝わってきます。

山口公演に向けて2013年の初演から変わっているところはありますか？

毎年稽古をしていますから、その度に少しずつ変わっています。衣裳やセットは変わっていませんが、とくに戦場の様子を描いたシーンはどうしたらよりよくなるだろうかと、稽古の度に演出の恵川さんと相談しながら表現を変えています。ポタンひとつでミサイルが飛んできて、目の前の人があつという間に血だらけになって傷ついてしまう、そんな戦争の怖さをもしかしたら知らない、想像したことのない子どもたちが多くいるかもしれません。だからこそ余計に、戦争で人間は身体が傷つけられるのだということを知ってもらいたい。直接的に言葉で表現はしませんが、この作品を観たときに感じ取ってもらえたらいいなと思っています。

本作には「物語は旅をする」というフレーズがあります。こんにゃく座も旅をする劇団であり、作品と劇団のコンセプトとのつながりを感じます。

こんにゃく座は「旅をするオペラ劇団」として活動していて、まさにオペラが日本中を、ときに世界を旅するということが大事にしているのですが、物語や芸能が

これまでに
山口で上演された
こんにゃく座
レパートリー作品

「あまんじゃくとうりこ姫」

1998年4月26日
会場：山口県教育会館ホール

「どんぐりと山猫」

2003年10月1日
会場：山口県教育会館ホール

「口はロボットの口」

2004年3月22日、24日
会場：山口情報芸術センター スタジオA

「あおくとときいろちゃん」

2006年3月12日
会場：山口市民会館 小ホール

「セロ弾きのゴーシュ」

2007年12月24日
会場：山口情報芸術センター スタジオA

「森は生きている」

2010年12月18日
会場：山口市民会館 大ホール

「口はロボットの口」

2016年3月3日
会場：山口市民会館 大ホール

※山口市文化振興財団または認定NPO法人こどもステーション山口が主催する公演のみ掲載。



「あらすじ」森の中で二人の姉妹マルセルとココは、戦場を逃げ出してきた一人の兵士と出会う。兵士は小さな銀のロバを持っていた。そのロバは病気の弟が兄へ渡した幸運のお守りだった。兵士が語るロバをめぐる物語。海を越えた故郷の国へと兵士を帰してあげようとする兄バスターを巻き込んだ姉妹の冒険が始まる。

「みんぱん」

- ◎LE VELVETSの素晴らしいさと市民のみなさまの温かさがぴったりと相まってとても感動しました。(山口きずな音楽祭vol.10)より)
- ◎好きな文学者が暮らした街を巡って歩くのが好きなので、興味深い展示でした。(20代女性 テーマ展「中原中也の散歩生活」より)
- ◎2回とも観たが、2回目のマシンの答え方が少し育っていておもしろかった。(40代女性 イスラエル・ガリバン+YCAM新作ダンス公演「Israel & イスラエル」より)
- ◎自分自身の解釈を友人と話しながらさらに深めていきたいと思えるとても素敵な作品でした。(10代女性 地点「忘れる日本人」より)

「みんぱん」

- ◎中原中也の人物がなんだかにじみ出ていた気がします。(20代女性 テーマ展「中原中也の散歩生活」より)
- ◎自分の中の何か動いたような体験ができてよかったです。(20代女性 「呼吸する地図たち」リサーチワークショップより)
- ◎「これってどういうこと!?!」と考え、感じる瞬間が多い劇だった。(20代女性 地点「忘れる日本人」より)
- ◎2部の合唱に感動して泣きました。(50代女性 「山口きずな音楽祭vol.10」より)



みんな楽しんで
子どもから大人まで
新しいオペラを作りたい。

西洋オペラの
コピーではない、

伝わっていくというところでは、私たちが考えているオペラが次の世代に広がって欲しいという思いと何か共通するものを感じています。

そもそもオペラとは何なのでしょう。
こんにやく座にとってのオペラとは？

こんにやく座の創立当初は、オペラがやりたいと思った声楽の学生たちを中心に結成されていて、日本でもっとオペラを根付かせ、オペラで生活していけるような環境を作りたいという考えがありました。明治になって日本に西洋音楽が入ってきたとき、西洋オペラはすでに大掛かりなグランドオペラの時代でした。だからオペラという壮大で華やかなイメージが強く根付きました。壮大なオペラもひとつの魅力ですが、本来は歌とお芝居がミックスした歌芝居から出発したものだと考えれば、もう少し身近なものにとらえ直すことができるし、演劇と音楽が結びついた芸能は世界中にあるわけで、たまたま西洋は楽譜を書くという文化が発達したから成熟したといえます。こんにやく座はもうすぐ50周年を迎えますが、長くや

ていくなかで、西洋音楽の手法を借りてきた、西洋オペラのコピーではない、子どもから大人までみんなが楽しめる新しいオペラを作りたい、それが私たちが考えるオペラになっています。

歌や音楽が加わることで、ただ台詞を話すのとは違う、身体に響く言葉の強さのようなものがでてくるのでしょうか？

やはり生の歌、生の楽器の音、生の声があることで観客により強く届くということはあると思います。オペラ「銀のロバ」では音楽はピアノだけの演奏です。教科書的にいうとオペラというのは、オーケストラがあって指揮者がいるものだとされていますが、私たちは指揮者のいない、ピアニストと歌い演じる人との掛け合いで舞台を作っていくというやり方をしています。そのライブなやり取りがあって初めて生き生きとした舞台が成立するわけで、それはとても大切なことだと思っています。オーケストラをピアノに焼き直すのではなく、ピアノはかなり色んな表現ができる楽器なので、あえてピアノで表現するという点にもこだわってやっています。

こんにやく座は
最初から旅する劇団として
誕生していました。

演劇やオペラ作品を観る機会の少ない地方にとって、全国を旅して公演しているこんにやく座の存在は嬉しいものです。

それは、こんにやく座を作った創立メンバーが旅することを常に念頭においていたからなんですね。当時から大変珍しいことだったと思います。私は創立時にはメンバーではなかったので事情がどうだったかは分かりませんが、普通東京で劇団をつくと、旗揚げ公演を東京でやってからスタートしますが、創立メンバーのみならず旅を始めたんですね。1年くらい旅をしたあとに東京公演をやっています。一年中オペラが上演できるにはどういうスタイルがいいのかを考えていくうちに、全国を旅して学校や劇場で子どもたちに見せるといったアイディアが生まれ、そこからこんにやく座ならではの特色が生まれていったのだと思います。いまでも東京公演は年に2〜3回で、一年の

ほとんどを旅公演しています。最初から旅する劇団として誕生していて、そういうことがやりたいと思って集まってきた人たちで生まれた劇団ですからね。

もうすぐ創立50周年。劇団員のなかには「子どもの頃にこんにやく座の作品を観ました!」という方もいらっしゃるのでは? いますよ。1999年初演の「ロはロボットのロ」を子どものときに観ましたという人も出てきてびっくりです。昔、作曲家の林光さんが、劇団俳優座の依頼で劇中の音楽を担当された「森は生きている」(1954年初演、その後ほかの劇団も舞台化していますよ。上演が続く作品)を「おばあちゃんとお母さんと一緒に3世代で観ました」と言われたよ、という話を聞いてすごいなと思っていましたが、こんにやく座もそのような時代が近づいたかもしれません(笑)。

PRESENT

オペラシアターこんにやく座
オペラ「銀のロバ」の公演チケットや、
関連グッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、4月30日(火・休)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A オペラ「銀のロバ」公演チケット (ペア5組)

B CD「世界は劇場」 (1名)

こんにやく座ソング集の第2弾。林光、萩京子作曲ソングを全51曲、2枚組CDに収めた珠玉のコレクション。



【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7 (公財)山口市文化振興財団 「any vol.108 特集プレゼント」係 FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp ※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

オペラシアターこんにやく座 オペラ「銀のロバ」

2019年7月7日(日) 16:00開演 (15:30開場) 会場:山口情報芸術センター スタジオA

【チケット情報】一般発売 4月13日(土)~

【料金】全席自由 ※未就学児入場不可

前売 一般 3,000円 / any会員 2,500円(1会員4枚まで) / こどもステーション山口会員無料

当日 3,500円



◎文豪さんのあまり知られていない一場面をのぞいているようでワクワクします。(20代女性 企画展Ⅱ「文士の肖像——林忠彦写真展」より)
◎地図と権力の関係性についての視点を得られて良かった。(50代女性 「呼吸する地図たち」レクチャーより)
◎四季それぞれの代表詩が写真とともにあって、詩集を見るようできれいだなと思いました。(20代女性 テーマ展「四季詩集——中也とめぐる春夏秋冬」より)
◎高度なおもちゃを手に入れたガルバンのはしゃいだ感じがたまらなく良かった。(40代男性 イスラエル・ガルバン+YCAM新作ダンス公演「Israel & イスラエル」より)



【ソーニャ・ハートネット】1986年生まれ。世界的に高い評価を受けている児童文学作家。オーストラリア・メルボルン在住。2004年「銀のロバ」を出版、オーストラリア児童図書賞を受賞。同作の日本語版は06年、主婦の友社より刊行(野沢佳織訳)。ほかに「木曜日に生まれた子ども」(河出書房新社)、「真夜中の動物園」(主婦の友社)などが翻訳されている。

any通信

詩人・中原中也を育てた
山口の風は
あなたのところにも
届いていますか？



今年も春空の下で 朗読会を行います。



深川和美(ソプラノ)



高本一郎(リュート)

山口が生んだ夭折の詩人・中原中也は、詩の朗読を好み、よく人前で披露していたといいます。そのことにちなみ、毎年、中也の誕生日には「空の下の朗読会」を中原中也記念館の前庭で開催しています。第1部は自由参加の朗読会。好きな詩・オリジナルの詩などを持ち寄り、ぜひ声に出して朗読してみましょう。新しい発見があるはず。第2部はゲストミュージシャンによるコンサート。今年は、ソプラノ歌手の深川和美さんとリュート奏者・高本一郎さんが登場されます。また、同日夕方からは、別会場でも中也賞の贈呈式や記念講演も行われます。ぜひ、あわせてご参加ください。

中原中也生誕祭「空の下の朗読会」
2019年4月29日(月・祝)
12:30~15:00 (詩の朗読希望者は12:00より受付)
会場:中原中也記念館 前庭
(雨天の場合、湯田温泉ユウベルホテル松政)
[ゲスト]深川和美(ソプラノ)
高本一郎(リュート)
[料金]無料(当日は、記念館への入館料も無料)

第24回中原中也賞贈呈式&記念講演
2019年4月29日(月・祝)
16:00~16:40 贈呈式
17:20~18:20 記念講演
「受賞者を称えるスピーチと、即興詩『サーカス』」(赤坂真理/作家)
会場:湯田温泉ユウベルホテル松政
[料金]無料



昨年の「空の下の朗読会」の様子

15周年記念グッズをプレゼント!

YCAM15周年記念グッズの一つとして販売しているオリジナルバッグ。丈夫で雨にも強いワリフ素材(ビニールハウスや青果の重量物の包装に使われている素材)が使われていて、サイズは大小2種類で展開。本誌をご覧の方に各サイズ1名ずつプレゼントします。ご希望の方は、氏名・住所・TELをご記入の上、下記までご応募ください。

〒753-0075 山口市中国町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.108 YCAM バッグプレゼント」係
FAX: 083-901-2216
e-mail: any@ycfcp.or.jp

締め切りは
4月30日(火・休)

※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

野崎有以 (詩人・研究者)

第22回中原中也賞(2017年)を受賞された野崎有以さんは、普段暮らす東京でも「山口」とのつながりを感じていらっしゃるようです。賞の贈呈式のために初めて訪れ、実際にみた山口は、野崎さんにどのような印象をもたらしたのでしょうか。

湯田温泉は本当にいいところ、 いつも時間が足りなくなります。



私は、中原中也(ちゅうやん)が帽子の写真を撮った数寄屋橋からも近い新富町駅周辺のことを「東京の山口」と呼んでいます。出口付近には山口新聞の東京支社、左手には聖路加国際病院があります。名誉院長だった日野原重明先生はちゅうやんと同じ湯田温泉出身です。その先には「つきじ治作」

という料亭があり、二年前、親戚の結婚式でこの料亭にいた私は、ここで中原中也賞の受賞の連絡を受けました。「東京の山口」で知らせを受けたことに強い縁を感じます。中也賞の贈呈式で初めて山口を訪れました。信号のボタンの存在を知らず、長いこと待っていたら、「ボタン押ししよう」と反対側から中学生たちがきてくれたり、ホテルで部屋の鍵を置き忘れて届けてもらったり、山口の人たちは私のようにだいたいが抜けた人にもとても優しいという印象をもちました。湯田温泉は本当にいいところで、いつも時間が足りなくなります。また湯田温泉に行きたいなと思います。

第22回中原中也賞贈呈式

2017年4月29日
会場:湯田温泉ユウベルホテル松政



2017年、全国から集まった188点の応募・推薦詩集の中から、第22回中原中也賞に選ばれた野崎有以「長崎まで」(思潮社)。「作者の語り」たい欲求の切なさが詩の内容の芯となっている。架空の町の架空の自伝とも読め、しかも演歌調の語りが戦略的。詩的にならないで詩の言葉になっている。意表を突いた詩集」と、高い評価を受けての受賞となった。中也の誕生日となる4月29日に贈呈式が行われ、新たな詩人の誕生をその場にかけた多くの市民が祝福した。

野崎有以 NOZAKI Ai

大学非常勤講師。1985年、東京都生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2015年、第53回現代詩手帖賞受賞。17年、第一詩集「長崎まで」によって、第22回中原中也賞受賞。18年、平成29年度東京大学総長大賞受賞。詩作のほか、今和次郎の提唱した家政思想についての研究を行っている。



2017 © Partner Media Investment - Left Field Ventures - Good Fortune Films

お先に
試写し
ました

「ともしび」

(2017年/フランス・イタリア・ベルギー/93分/カラー)
[監督]アンドレア・バラオロ [出演]シャーロット・ランプリング、アンドレ・ウィルム ほか

映画冒頭大変びっくりするかもしれませんが。何かを大声で発している女性。その意味を持たない発声はその後のアンナの物語を象徴しているようです。老夫婦のアンナとその夫は、ある日、夫がある罪により出頭し、そのまま収監されてしまいます。映画は、アンナが変わらず生活を続けていく様子を淡々と追っていきます。変化は微妙に、しかし確実に訪れてきます。一緒に暮らしていた犬もどこかよそよそしく、地下鉄に乗っているとそれまでは気にもしなかった痴話喧嘩が耳に入ってきてしまう。当然と思っていた日々がどこまでも危ういバランスで成り立っていることが、たった一つのきっかけで崩れていって

しまう恐ろしさ。同時に、私たちの目の前の日常のかけがえのなさを感じさせてくれます。説明は少なく謎めいた映画です。多くのシーンを一人で演じ、言葉でなく、佇まいと細やかな仕草で表現するシャーロット・ランプリングは圧巻です。

杉原永純 (YCAM シネマ担当)

2019年4月19日(金)~21日(日)、
26日(金)~28日(日)各日13:30~
4月29日(月・祝)・30日(火・休)
各日16:10~
会場:山口情報芸術センター スタジオC
[料金]一般1,300円
any会員・特別割引・25歳以下800円

観た作品 「バッド・ジーニアス」

(2017年/130分/タイ/カラー)
[監督]ナタウド・ブーンピリヤ
©GDH 559 CO., LTD. All rights reserved.

観た人 村田 敦 (ベジブル喫茶 ToyToy店主)

観た日 2019年2月16日

エンドロールで舞台となった高校の校歌が流れるのだが、これがなんとモルイ牧歌的なカントリーソング。本編のスリリングな展開と相まってカンニングの罪の大きさを突きつけられたクライマックスシーンだった。「エンドロールが終われば、劇場が明るくなるまでが映画だな」と改めて実感した。

の読書窓

「聖書? 難しそう!」心のよりどころが欲しいけど、宗教はちょっと……という人におすすめしたい本として、これ以上のものを思いつかない。本当にゆるい。楽しく読んでいるうちに、あんなに遠い存在だった聖書が、いつの間にかすぐそこに。ツイッターのアカウント(@kamiyamach)も要チェック。みちびきい〜!



「上馬キリスト教会の 世界一ゆるい聖書入門」

作者名:上馬キリスト教会
発行年:2018年 出版社名:講談社

中村 亜希 (山口市立中央図書館 職員)

この日の出来事

5月2日



Queen 山口ライブのチラシ

Queenが山口に来ていた!?

映画「ボヘミアン・ラプソディ」のヒットによって伝説のロックバンド「Queen」の存在に一躍脚光が集まっていますが、その世界的なスターバンドが実は1979年5月2日、山口でライブを行っていたということをご存知でしょうか? 現在YCAMが建っているエリアにかつてあった県体育館で行われ、中四国で唯一の公演地であるとチラシにもうたわれています。「なぜ山口に!?!」と首をかしげたくになりますが、なんにせよ、ここ山口に彼らが来ていたのだ!と考えると興奮してきます。彼らのライブパフォーマンスは、きっと盛り上がったに違いありません。そんな幻のライブが行われたその場所にいまはYCAMがある、とても不思議な気持ちになります。

MyTool



「半田ごて・アナログテスター」

熱いこて先をハンダにあてるとジュッと音がして煙と独特においが上がってくる。私が初めてハンダ付けの作業を見たのはまだ小学校にも上らない頃。銅でできた雨どいをハンダでくっつけていた。当時は炭で温めた半田ごてを使っており、溶けたハンダが銀色に光って金属に広がっていく不思議な光景を今も憶えている。その後、中高生になってラジオやアンプ作りなどに夢になり、半田ごて、電圧や抵抗値を図るテスターは必須のツールとなって今に至っている。当時安くもない電気半田ごてやテスターを誰か買ってくれたのか覚えていないが、趣味に日常生活に随分と活躍してきたものだ。炭の中で熱せられたかいつい半田ごてや、今ではデジタルに代わってしまったが、細い針がゆっくりと値を示すアナログテスターはいつも私を若返らせてくれる。

西村 平 (山口市民会館 館長)

視聴 ビュン! あなた!

- ◎心臓がドキドキしてとっても楽しかったです。(10歳未満の子 イスラエル・ガルバン+YCAM新作ダンス公演「Israel & イスラエル」より)
- ◎抽象的なので分からないところもあったが、それでもいいと思えるような…なんだか迫力があつた。(50代女性 地点「忘れる日本人」より)
- ◎よくフラフラした方なのだと分かっておもしろかった! (20代女性 テーマ展「中原中也の散歩生活」より)
- ◎受験勉強を頑張っている娘へのいいクリスマスプレゼントになりました。(40代女性 「山口きずな音楽祭 vol.10」より)

視聴 ビュン! あなた!

- ◎秋の詩のチョイスが個人的に好きな詩が多く、たくさんのお客さんに知られたと思うと嬉しかった。(30代女性 テーマ展「四季詩集——中也とめぐる春夏秋冬」より)
- ◎後者さんのパワーに圧倒された。一人一人とても魅力的だった。(50代女性 地点「忘れる日本人」より)
- ◎アカベラがアカベラじゃないみたいですごかったです。(20代女性 「山口きずな音楽祭 vol.10」より)
- ◎まだまだ発展していく余地がある作品ではないかと感じた。(50代女性 イスラエル・ガルバン+YCAM新作ダンス公演「Israel & イスラエル」より)

イベントレポート

イスラエル・ガルバン+
YCAM新作ダンス公演
「Israel & イスラエル」



photo: 田邊アツシ

去る2月2日と3日、YCAMでイスラエル・ガルバンとの共同制作による新作ダンス公演が発表されました。フラメンコ界の革命児として知られ、これまで他のフラメンコダンサーとの共演がなかったイスラエル・ガルバンが、自らのステップを学習した人工知能と共演を果たすという前代未聞の公演に高い注目が集まり、前売券は両日とも完売。その世界初の試みを自分の目で確かめようと、各地から集まった観客によって会場内は興奮と熱狂に包まれていました。AIによって操作されたデバイスとともに、ガルバン特有の表現力豊かなダンス、超絶技巧のステップが次々に披露され、感動を呼び起こした本作。身体表現の世界にどのような革命がもたらされたのでしょうか!?

旅するYCAM

「メディアアートの輪廻転生」
「The Other in You」



「メディアアートの輪廻転生」展示の様子(2018、YCAM)
photo: 山中慎太郎 (Qsyumi)

メディアテクノロジーを用いた新しい表現方法を探索し続けているYCAMが、近年発表した「The Other in You」と「メディアアートの輪廻転生」。この度、ポランド西部にある都市ヴロツワフで開催されるメディアアートの国際展「第18回メディアアートビエンナーレWRO」にて、巡回展示が決定しました。バーチャルリアリティ(VR)などを駆使した映像インスタレーション作品「The Other in You」では、ダンスの新しい鑑賞方法を提案。「メディアアートの輪廻転生」は、作品の「死」という新たな概念を提示するとても印象的な展覧会です。

2019年5月中旬～9月下旬予定
【巡回先】WROメディアアートセンター
【第18回メディアアートビエンナーレWRO】

「観るべきだった！」
「聴くべきだった！」
「見るべきだった！」

PICK UP EVENT! SPRING 2019 ピックアップイベント

山口情報芸術センター(YCAM)

http://www.ycam.jp/

YCAMスポーツハッカソン2019

2019年5月3日(金・祝)～5日(日・祝) ※時間はお問い合わせください。

会場:スタジオA

スポーツはつくれる!!

スポーツハッカソンとは、開発(デベロップ)と実践(プレイ)を繰り返しながら、アイデアとテクノロジーを詰め込んだ新しいスポーツを参加者とともにつくっていくワークショップです。これまでに3回YCAMで実施し、ゲームクリエイターやプログラマー、栄養士や中学生など様々なバックグラウンドを持つ人たちや、幅広い年齢層が集まり、自由な発想で、まだ見ぬスポーツを生み出してきました。最終日には、スポーツハッカソンでつくられた生まれたての競技を、大勢の参加者とともに「未来の山口の運動会」の中で実際に実演します。今年はどうなスポーツがここで誕生するのでしょうか。YCAMならではの知見が詰め込まれた「スポーツハッカソン」で、観戦・応援する、実践するスポーツだけではなく、「つくる」スポーツの可能性を一緒に探求しましょう。



photo: 塩見浩介

わたしはココに注目する!

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、これまで以上に注目が集まる“スポーツ”。そこには新しい視点で“スポーツ”をとらえ直す広がりもみせています。私たちがここで提唱するのは「スポーツはつくれる!」ということ。ぜひ誰もが参加できるスポーツ(競技)と一緒に考えましょう。
石川琢也(YCAMエデュケーター)

料金 ■ 一般 15,000円 大学生 8,000円 高校生以下無料

※交通費、宿泊費、食費などは別途参加者負担。※お得な宿泊パックあり。詳細はお問い合わせください。

【定員】30名(応募多数の場合は抽選) 【対象】中学生以上

第4回 未来の山口の運動会

2019年5月5日(日・祝) 11:00～17:30

会場:スタジオA

世界初の競技を みんなで体験する

上段の記事でご紹介した「スポーツハッカソン」で生み出された、世界初の真新しい競技をたくさんの参加者と実践する「未来の運動会」。ここでは、子どもたちも大人に混じって、車椅子のひとつも、おじいちゃん・おばあちゃんも一緒に競技に参加することができます。YCAMで初めて開催した「未来の山口の運動会」を筆頭に、近年では「未来の渋谷の運動会」「未来の大阪の運動会」など、日本各地へと広がっています。昨年12月から今年1月末まで開催された、東京の銀座ソニーパークでの「未来の銀座の運動会」にも大勢の参加者が集まりました。

料金 ■ 無料(要申込)

【定員】小学生以上200名(先着順) ※定員に達しましたが、追加枠で30名募集(抽選、4/25締め切り)。申込方法等詳細はお問い合わせください。



photo: 塩見浩介

わたしはココに注目する!

未来の運動会は、参加する人、運営する人を分け隔てることなく、共に作り上げる未来志向の運動会です。毎回まったく競技が決まっていなかった状態からスタートするスポーツハッカソンの参加者がどんな競技をつくり上げるのか、ぜひご期待ください。ハッカソンからの参加はもちろん、生まれたての競技の戦略や楽しみ方をみんなで発見し合いながら楽しみましょう!
西翼(一般社団法人 運動会協会理事)

PICK UP EVENT! SPRING 2019 ピックアップイベント

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展

「沸騰する精神——詩人・上田敏雄」

2019年4月17日(水)～7月28日(日)

絶えず変化し続けた詩人の全貌

1900(明治33)年、現在の山口県防府市に生まれた上田敏雄は、慶応義塾大学文学部英文科在学中に詩壇に登場。28(昭和3)年に、弟・保、北園克衛と連名で、日本初のシュルレアリスム(超現実主義)宣言を発表します。そして、29(昭和4)年には詩集『仮説の運動』を刊行し、大きな反響を呼びました。その後中断を経て、1940年代後半に詩の発表を再開。82(昭和57)年に81歳で亡くなるまで、新作を発表し続けました。中也とは、31(昭和6)年に入学した東京外国語学校(現・東京外国語大学)の同級生という間柄で、中也は詩集『山羊の歌』を上田に献呈しています。本展は、絶えず変化し、常に新しい詩精神

入館料 ■ 一般 320円(270円) 大学生 210円(162円)

※あわせてテーマ展もご覧いただけます。 ※18歳以下、70歳以上は無料 ※()内は20人以上団体料金



上田敏雄(「仮説の運動」口絵写真)

によって詩をつくり続けた詩人・上田敏雄の全貌を、貴重な直筆資料の展示を中心に紹介します。

わたしはココに注目する!

防府市出身の上田敏雄は1945(昭和20)年に帰郷し、以後亡くなるまで故郷を離れませんでした。詩に故郷はほとんど出てきませんが、ご本人は山口方言の本格的な使い手だったとか。そのギャップがまた魅力です。

【受賞者コメント】



井戸川射子
IDOGAWA Iko

会話は完全にはできないこと、自分の体さえ思い通りにならず、思い出には手が届かないこと、周りのみんなが、たぶん同じくらい悲しくいること、それを形にできるものがわたしにとっては詩でした。はじめて自分で小さな詩集にまとめ、大好きな祖父が愛読していた中原中也を記念した賞をいただき、今とてもしあわせです。いつもいちばん近い言葉を選ぶしかなくても、詩があって、それで良かったです。身の引き締まる思いです。この度はありがとうございました。

1987年、兵庫県生まれ。関西学院大学社会学部卒業。大学において死生学を学び、兵庫県で国語教員として勤務。雑誌などへの詩の投稿を経て、第一詩集『する、されるユートピア』を私家版でまとめる。同作品が全国より集まった218点の応募・推薦詩集の中から「表現力が素晴らしい、悲しみをうたう詩に優れた中也を顕彰する賞にふさわしい」と審査委員に高く評価され、第24回中原中也賞を受賞する。

「する、されるユートピア」所収「発生と変身」より抜粋

ビニール袋が風に運ばれてこっち来る、ぼくなどすぐに通り越してしまおう
この中で、透明なそれが土に還れないのは怖くない?
楽しみは、飛ぶ時にだけあるのかな
向かいの子どもが、念のため急ぐ、と叫んで帰りの乗り場へ駆け出す
念のためだって、と笑ってぼくも走る
もし新生児に戻れたら、発見の瞬間を大事にする
脚を突っ張るように伸ばせること、変化に驚くこと
まだ声も高く囀も描けない、ここにはぼくが選ぼう言葉しか書いていない
体は支えて、それが大きく息づきした
抱きあっても首まわりにすぎ問はできる、それが何だ
知っている、文章では不十分だ
ロープウェイの手すりにもたれかかると、
さっきの子どもがワワワワ界に行く!と言いつきに手を当て小刻みに叩き、ワーと声出す
ぼくもそこ行つたことある、でも違う音がしてるだろうな、手のひら同じでないものな

第24回 中原中也賞

「観るべきだった!」
「聴くべきだった!」
「見るべきだった!」

「観るべきだった!」
「聴くべきだった!」
「見るべきだった!」

◎いいディレクションで気持ちがとても揺れた。(40代女性 「呼吸する地図たち」レクチャーより)
◎中也には街をさまよっているイメージがあったが、やはり詩とリンクしていた。(50代女性 テーマ展「中原中也の散歩生活」より)
◎文豪のみなさんの日常が切りとられていい写真ばかりでした。(10代女性 企画展II「文士の肖像——林忠彦写真展」より)
◎非常に興味深い企画展で来た甲斐がありました。(50代女性 「呼吸する地図たち」より)

先行チケット
発売情報
早チケ 4月14日
発売!

VOICE SPACE
CONCERT TOUR 2019
「アラベスクの飾り文字」

2019年7月5日(金) 18:30開演
会場:山口市民会館 小ホール



写真左より小林沙羅、関口将史、中村裕美、豊田耕三

中原中也の詩に音楽をつけた作品を多く発表し、昨年の中原中也生誕祭でのミニライブにも登場した「VOICE SPACE」が、中原中也記念館開館25周年をみんなで祝うためコンサートを開催します。クラシック、アイリッシュ音楽の演奏家、歌手、作曲家といったジャンルを超えたメンバーが奏でる、詩と音楽のコラボレーションにご期待ください。

[チケット情報] 4月14日(日)～
[料金] 全席自由
前売 一般 3,500円
any会員 3,200円
大学生以下 1,500円

先行チケット
発売情報
早チケ 6月7日
発売!

バントマイムブラネット
「リトルピース」

2019年8月31日(土) 18:30開演
会場:山口市民会館 小ホール



暮らしの中のほんの小さな出来事(リトルピース)を集めた、笑えて、奇天烈で、時にせつなくなるような珠玉のバントマイム短編集はいかがですか? 作・演出・出演のチカバンは、演劇的な表現が魅力の女性バントマイムアーティスト。時に言葉やモノを使う独自のスタイルで世界中に笑顔を届けています。みなさんもバントマイムで生み出される空想の世界で思いっきり遊びましょう。

[チケット情報] 6月7日(金)～
[料金] 全席自由
前売 一般 2,500円
any会員 2,300円(1会員4枚まで)
25歳以下 2,000円

P I C K U P E V E N T ! S P R I N G 2 0 1 9
ピックアップイベント

山口市民会館

<http://www.yamaguchi-civichall.com/>

特撰落語会
三遊亭小遊三・三遊亭円楽・柳家花緑

2019年4月28日(日) 14:00開演(13:00開場)

会場:大ホール

今年の春も落語で
笑顔の花が咲く

毎年春に笑点メンバーを迎えて開催している恒例の特撰落語会。来年も聞きたいというお客様の熱いお声にこたえて、今回も三遊亭小遊三師匠と三遊亭円楽師匠が山口市民会館にやってまいります。両師匠による巧みでユーモアあふれる名人芸に酔いしれること請け合いです。今年はさらに五代目柳家小さんを祖父に持つ落語界きってのサラブレッド・柳家花緑師匠も登場します。22歳という戦後最年少で真打昇進を果たし、古典落語の名手でありながら独演会では落語に新風を吹き込むスタイルが



三遊亭小遊三

三遊亭円楽

柳家花緑

話題です。落語だけに限らず様々な分野でも活躍している3人の落語にご期待ください。

わたしはココに注目する!
なんとっても花緑師匠にご注目! 山口県の魅力を集めた書籍「d design travel YAMAGUCHI」の出版記念として、山口県をテーマに創作落語を披露されたこともあるぐらゐ山口をよく知る落語家のお1人なんですよ。

チケット情報 | 発売中
料金 | 全席指定 前売 一般 4,200円 any会員 3,800円(1会員4枚まで)

人形劇団ブーク
「三びきのやぎのがらがらどん」

2019年5月11日(土) 17:30開演

会場:小ホール

三びきのやぎが
魔物トルルに立ち向かう

1929年の創立以来、人々の平和と幸せを願いながら活動を続けている人形劇団ブーク。作品レパートリーも豊富で、子どもから大人まで楽しめる人形劇を創り続けています。今回は、日本の子どもたちにも長く読み継がれる北欧の絵本「三びきのやぎのがらがらどん」を上演します。お腹を空かせる三びきのやぎは食べ物求めて遠くの山へ。しかし、途中の橋のためには大きな魔物トルルが住み、渡ろうとするやぎをひとのみにしようと襲いかかります。三びきは無事に橋を渡りきることができるのでしょうか?

チケット情報 | 発売中
料金 | 全席自由 一般 3,000円 any会員 2,700円(1会員4枚まで) 当日 3,500円 ※3歳以上有料

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。



知恵と勇気で困難に立ち向かうやぎたちのお話です。人形劇団ブークによって新たな命を吹き込まれた人形たちが繰り広げる、スリル溢れる舞台に目が離せない?!

わたしはココに注目する!
絵本では天狗のような鼻と大きな目が迫力満点で描かれていたトルルが、どのような人形となって立ちふさがるのでしょうか。橋を渡る場面や絵本で気になるあのシーンはどのように人形を操るのか、ぜひ会場でお確かめください!

MESSAGE BOARD

今春行われる山口市内の催し物情報が届きました! あなたはどこにお出かけします?

山口市立中央図書館



昨年開催の様子

第5回こどもワイワイ図書館
2019年4月28日(日) 10:30~16:00

図書館にこどもたちのにぎやかな笑い声があふれます。エフエム山口パーソナリティによる読み聞かせイベントなど楽しい企画が満載です。

[お問い合わせ] 山口市立中央図書館
TEL. 083-901-1040 <http://www.lib-yama.jp/>

山口県立美術館



(S) 扇の国、日本(海北友雪、堀玉露立、藤原隆徳の博物館、六曲双、江戸時代、17世紀)

山口県立美術館開館40周年記念
「扇の国、日本」
開催中~2019年5月6日(月・休)

折り畳めて持ち運び可能な、日本発の発明品、扇。多彩で奥深い、日本人が愛した扇の世界をご紹介します。

[お問い合わせ] 山口県立美術館
TEL. 083-925-7788 <http://www.yma-web.jp/>

クリエイティブ・スペース赤れんが



旅するホルン吹きの日 in 赤れんが
2019年4月7日(日) 13:30開演

自称「旅するホルン吹き」の蔵田亜由美さんを迎えてのコンサート。フレンチホルンとアルプホルンの2つのホルンの音色を楽しめます。

[お問い合わせ] クリエイティブ・スペース赤れんが
TEL. 083-928-6666
<http://www.akarenga.justhpb.jp/>

山口県文書館



開館60周年記念・アーカイブスウィーク
「情報と記録」
2019年6月1日(土)~9日(日)

「情報と記録」をテーマに、文書館が所蔵する資料を展示し、ギャラリートークや歴史講座、書庫見学ツアーなど幅広い企画を行います。

[お問い合わせ] 山口県文書館
TEL. 083-924-2116
<http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

山口県立山口博物館



テーマ展
「目撃! 地球史40億年」
—岩石が語る地球の歴史—
2019年4月16日(火)~6月30日(日)

地球誕生から生物化石が登場する前までの40億年間の歴史を、大陸の岩石標本と風景写真でとります。

[お問い合わせ] 山口県立山口博物館
TEL. 083-922-0294
<https://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/>

中央公園



山口オクトーバーフェスト 2019
2019年4月26日(金)~5月6日(月・休)

昨年引き続き、ドイツビールのお祭りが中央公園で開催されます。おいしい料理にビールに楽しい仲間とにぎやかに過ごすひと時をお楽しみください。

[お問い合わせ] yab 山口朝日放送
TEL. 083-933-1111(平日10:00~17:00)
<https://www.yab.co.jp/>

4 April

5 May

6 June

※掲載内容は2019年3月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

■シネマ

毎週金曜の夜に【全曜夜のYCAMシネクラブ】、不定期に【YCAM名画座】を開催しています(※休映日あり。詳細は、YCAMポータルサイトまたは「YCAMシネマプログラム」をご覧ください。)

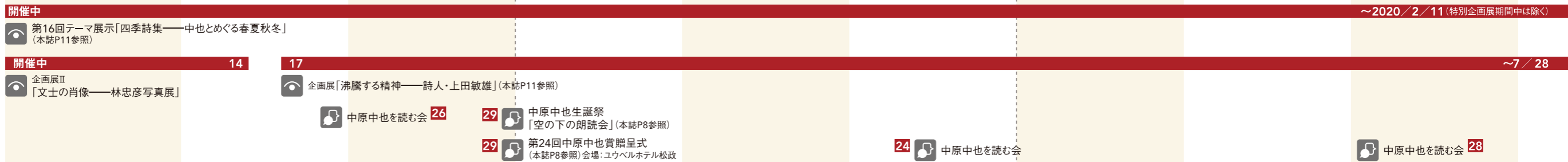


山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/



[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

- インターネット** 山口市文化振興財団ホームページ (24時間受付)
http://www.ycfcp.or.jp/
※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。
- 電話** チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)
TEL. 083-920-6111
- 窓口** チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)
山口情報芸術センター
※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。
- 支払方法**
- クレジットカード** インターネットでチケット予約された際に利用いただけます。
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。
- セブンイレブン** インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。
- 窓口** ※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。
※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
お客様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上
[料金] 1人につき700円、
2人目以降は1人につき500円
[時間] 開演の30分前から終演後30分まで
[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。
※公演によっては行わない場合もございます。
事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上
[料金] 1人につき30分200円
[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで
(山口市立中央図書館休館日を除く)
[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで
[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

友達との花見企画にそわそわ。美しい夜桜や美味しい花見弁当を堪能している自分を妄想。仕事が手につきません。(M.D)
私の旅行に欠かせない御朱印帳。奈良では授与の際に話が弾み菓子の贈り物。山口市でお店を営む友人にも渡してと新たなご縁も授かりました。(T.I)
この冬イチはまったのが、おでん。お家はもちろん、行く先々のお店で色んなおでんとの出会いに舌鼓。とりあえず大根と厚揚げで一杯!(K.A)

- A 中原中也記念館**
〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
http://www.chuyakan.jp/
- B 山口情報芸術センター(YCAM)**
〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp
- C 山口市民会館**
〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/

検定 中 也
A. ゴツポー
(「アラ」は「真夏屋忠楽」に、「遅い」は「除夜の鐘」にあります。他にもあるので探してみてください。)

レミ聴観
びんいた
ユなた!
の!
◎LE VELVETSさんのコンサートは初めてでしたが、とても素晴らしい今までのきずな音楽祭にできなかったことを後悔しました。(30代女性 「山口きずな音楽祭 vol.10」より)
◎坂口安吾のあの書斎の撮影秘話が坂口・林両者の文章からうかがえて思わず声に出して笑ってしまいました。(40代女性 企画展Ⅱ「文士の肖像——林忠彦写真展」より)
◎目的や先入観のない「赤子」のようなAIに無邪気に向かい合うガルバン氏の姿が印象に残りました。
(40代男性 イスラエル・ガルバン+YCAM新作ダンス公演「Israel & イスラエル」より)



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion